



「第5次池田市地域福祉活動推進計画(iプラン)」 中間評価とりまとめ (令和5年4月～令和7年8月)

プランと中間評価

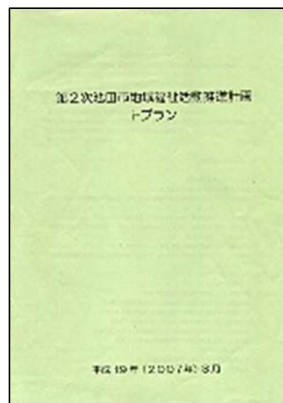


池田市地域福祉活動推進計画(iプラン)の概要

池田市社協の使命とあり方についての方向性を示すとともに、地域福祉にかかわる取り組みを具体的にどのように推進していくかの行動方針を明らかにするためのもので、平成14年度の第1次計画から、おおむね5年ごとに策定。令和7年度は、現在推進している第5次計画の3年目となり、これまでの取り組みを振り返り、今後の実施方針を確認するため、中間評価を実施。



平成14年



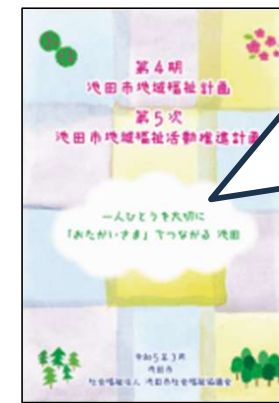
平成19年



平成24年



平成29年



令和5年

現在の計画

【計画期間】
令和5年度～9年度までの5年間

【特徴】
市とのさらなる連携協力による地域共生社会の実現を目指すため、**池田市地域福祉計画と初めて一体的に策定**

中間評価の実施方法

【評価方法】

計画に記載されている社協の取り組み**全77項目**について、令和7年7～8月の2か月間、職員による自己評価を実施。評価の際は、成果を**実績値などのデータ**で示し、客観的な評価に努めた。市地域福祉計画と一体的に進めるため、共通の中間評価シート様式を利用。職員ミーティング(9月4日開催)にて全職員で結果を共有した。

【評価基準】

目標達成にむけて

- A おおむね順調に進んでいる
- B 効果があらわれている
- C 効果がみられない
- D 未着手

項目	実施状況	評価	備考
1. 地域福祉の推進	...	A	...
2. 高齢者の福祉	...	B	...
3. 障害者の福祉	...	C	...
4. 子どもの福祉	...	D	...
5. 女性の福祉	...	A	...
6. 高齢者の福祉	...	B	...
7. 障害者の福祉	...	C	...
8. 子どもの福祉	...	D	...
9. 女性の福祉	...	A	...
10. 高齢者の福祉	...	B	...
11. 障害者の福祉	...	C	...
12. 子どもの福祉	...	D	...
13. 女性の福祉	...	A	...
14. 高齢者の福祉	...	B	...
15. 障害者の福祉	...	C	...
16. 子どもの福祉	...	D	...
17. 女性の福祉	...	A	...
18. 高齢者の福祉	...	B	...
19. 障害者の福祉	...	C	...
20. 子どもの福祉	...	D	...
21. 女性の福祉	...	A	...
22. 高齢者の福祉	...	B	...
23. 障害者の福祉	...	C	...
24. 子どもの福祉	...	D	...
25. 女性の福祉	...	A	...
26. 高齢者の福祉	...	B	...
27. 障害者の福祉	...	C	...
28. 子どもの福祉	...	D	...
29. 女性の福祉	...	A	...
30. 高齢者の福祉	...	B	...
31. 障害者の福祉	...	C	...
32. 子どもの福祉	...	D	...
33. 女性の福祉	...	A	...
34. 高齢者の福祉	...	B	...
35. 障害者の福祉	...	C	...
36. 子どもの福祉	...	D	...
37. 女性の福祉	...	A	...
38. 高齢者の福祉	...	B	...
39. 障害者の福祉	...	C	...
40. 子どもの福祉	...	D	...
41. 女性の福祉	...	A	...
42. 高齢者の福祉	...	B	...
43. 障害者の福祉	...	C	...
44. 子どもの福祉	...	D	...
45. 女性の福祉	...	A	...
46. 高齢者の福祉	...	B	...
47. 障害者の福祉	...	C	...
48. 子どもの福祉	...	D	...
49. 女性の福祉	...	A	...
50. 高齢者の福祉	...	B	...
51. 障害者の福祉	...	C	...
52. 子どもの福祉	...	D	...
53. 女性の福祉	...	A	...
54. 高齢者の福祉	...	B	...
55. 障害者の福祉	...	C	...
56. 子どもの福祉	...	D	...
57. 女性の福祉	...	A	...
58. 高齢者の福祉	...	B	...
59. 障害者の福祉	...	C	...
60. 子どもの福祉	...	D	...
61. 女性の福祉	...	A	...
62. 高齢者の福祉	...	B	...
63. 障害者の福祉	...	C	...
64. 子どもの福祉	...	D	...
65. 女性の福祉	...	A	...
66. 高齢者の福祉	...	B	...
67. 障害者の福祉	...	C	...
68. 子どもの福祉	...	D	...
69. 女性の福祉	...	A	...
70. 高齢者の福祉	...	B	...
71. 障害者の福祉	...	C	...
72. 子どもの福祉	...	D	...
73. 女性の福祉	...	A	...
74. 高齢者の福祉	...	B	...
75. 障害者の福祉	...	C	...
76. 子どもの福祉	...	D	...
77. 女性の福祉	...	A	...

中間評価結果(まとめ)



全項目の91%(70項目)が「A」または「B」を占め、3年目を迎える段階で取り組みが着実に進んでいる。一方で、「C」「D」評価が7項目あった。これらは「**これまでなかった新しい取り組みで一から検討が必要なもの**」「**市との協議が必要**」な項目が中心で(参照:各目標における評価結果)、準備・調整に多くの時間とリソースが必要であることが分かった。残り2年半において、順調な項目は引き続き取り組みを進め、成果に結びついていない項目は、情報収集から始め、令和9年度までの目標達成に向け、計画的に取り組むことを目指す。

計画における「3つの基本目標」「10の取り組み」

基本目標	取組	取組詳細
① 包括的な相談支援体制の構築	取組1 包括的な相談支援体制の構築	①ニーズ把握と情報の提供 ②市全体で分野を問わず、断らない相談支援体制をつくる ③多機関協働のネットワークをつくる ④身近な地域で生活課題を把握するための仕組みをつくる ⑤分野横断型の各種福祉制度・サービスの推進
	取組2 参加支援体制の構築	①相談支援と参加支援をつなぐプラットフォームをつくる ②ニーズを踏まえた丁寧なマッチング体制をつくる ③対象者の課題に応じたメニューの整備
	取組3 権利擁護の仕組みづくり	①権利擁護支援や成年後見制度の利用促進(成年後見制度利用促進基本計画) ②再犯防止に向けた取組(再犯防止推進計画) ③高齢者、障がい者、子ども等の虐待防止の取組 ④消費者被害の防止
② 身近な地域における福祉活動の活性化	取組1 身近な地域における福祉活動の活性化	①地区福祉委員会活動と小地域ネットワーク活動の推進 ②全世代型の居場所・集いの場づくり ③見守り・支え合い活動の推進 ④各種生活支援サービスの活性化と創出 ⑤多様な主体による地域福祉推進
	取組2 当事者のつながりづくりと活動の支援	①相談支援から当事者のつながりづくり ②同じ課題を抱えた人同士の組織化
	取組3 地域を基盤とした防災活動の推進	①避難行動要支援者に対する避難行動支援への取組 ②要配慮者の避難体制の強化に向けた取組 ③災害ボランティアセンターの設置運営
	取組4 だれもが住み良い環境の整備	①福祉に関する情報の共有 ②住環境や生活環境の整備 ③人権意識の醸成と差別の解消 ④ダイバーシティ社会の推進
③ 福祉意識の醸成	取組1 福祉意識の醸成	①学校及び地域を拠点とした福祉教育の推進 ②住民参加による「学び合い」の機会の充実
	取組2 ボランティア活動及び公益活動・NPO活動支援体制の整備	①ボランティア活動などへの支援 ②活動のための資金調達
	取組3 地域福祉活動の担い手づくり	①子ども・若者の参加促進 ②壮年期世代の参加促進 ③シニア層の活動の活性化

各目標における評価結果(詳細)

目標1「包括的な支援体制づくり」(全28項目)

「A」「B」合わせて89%、おおむね順調に進んでいる。
取組1:「A」「B」のみで、包括的相談支援体制の構築が取り組まれ成果が出ている。
取組2:「**対象者の課題に応じた居場所や参加支援メニューの開発**」が「C」となり、着手はしているものの課題が残った。
取組3:「**再犯防止に向けた取り組み**」「**法人後見受任の検討**」で「C」「D」となり取り組みが弱い

目標2「つながり支えあう地域づくり」(全24項目)

「A」「B」合わせて88%、おおむね順調に進んでいる。
取組1:多くが「B」で、効果が徐々に表れている。
取組2:「A」のみとなり、当事者の組織化が順調に進んでいる。
取組3:「**保健福祉総合センターの福祉避難所体制整備**」「**災害ボランティアセンターの運営支援協定締結**」「**避難行動要支援者に対する支援**」で「C」「D」となり、取り組みが課題。
取組4:「A」「B」のみで、取り組みが順調に進んでいる。

目標3「地域福祉を支えるひとづくり」(全25項目)

「A」「B」合わせて96%、「D」は無く、最も取り組み効果が表れていた。
取組1:「A」「B」のみで、福祉教育の推進が行われている。
取組2:「A」「B」のみ。ボランティア活動および公益・NPO活動の支援体制が整備されつつある。
取組3:「**壮年期世代の地域参加促進**」が「C」となり、シニア層以外の担い手づくりが課題。



「C」「D」評価となった7項目(赤字部分)は、「**これまでなかった新しい取り組みで一から検討が必要なもの**」「**市との協議が必要**」な項目が中心。

主な実績①共生のまちいけだプラットフォーム事業

(目標1-取組2、目標2-取組1・4、目標3-取組1・2)

社会福祉法人
池田市社会福祉協議会



多くの住民や団体が、地域生活課題を解決するために活動しているが、課題の複雑化複合化が増え、個人や団体だけで解決するには限界がある。活動者が集まり、共に課題解決していく場として令和5年度より立ち上げ、**子育てや不登校に関する協働プロジェクトが始動**している。今後も引き続き、新たなテーマと小地域のプラットフォームを定期的に進めていく。

プラットフォーム「子どもたちの育ち・育み」

令和5年度からは「子ども」をテーマに始動。話し合いはR5:2回、R6:21回、協働は19団体に及ぶ。令和7年度から障がいテーマに着手。



プラットフォーム「小地域」

令和6年度より、校区単位の話し合いを開始。R6:五月丘地区、R7:五月丘地区、石橋南地区、緑丘地区で開催中。



プラットフォームを超えた取り組み

プラットフォームでの出会いをきっかけに、**全中学校区で不登校の親の会「親同士のおしゃべりカフェ」が発足**



主な実績②池田市ひきこもり支援事業

(目標1－取組1・2)

社会福祉法人
池田市社会福祉協議会



令和7年度より、ひきこもりに関する相談窓口を開設(池田市委託事業)。**福祉専門職1名配置**。制度のはざまに対応する相談支援の充実に向け、市とともに中核的な役割を担い、分野横断型の相談支援機関のネットワーク構築に参画している。また、対象者の社会参加機会づくりとして、「しごと・ちいき活動体験」をCSW事業と協働し展開。現在、市民からの相談を受け付ける窓口体制は構築できたが、今後は対象者が社会へつながる一步となる、参加支援事業などの**支援メニュー、若者支援のさらなる充実**が求められる。

開設までの経緯

CSW事業を通して、ひきこもり世帯への支援メニューが無く、多くの当事者や支援者が悩んでいることがわかる。庁内調整を重ね、「ひきこもり支援連絡会」を令和2年に立ち上げ。各分野の実務者と意見交換に取り組み、令和5年度より設置された「多機関協働会議」で協議の上、窓口開設にいたる。

ケース件数と傾向

【ケース件数】

計29件(令和7年9月末現在)

令和7年4月以降の新規ケース14件

令和7年4月以前からの継続ケース15件(CSW対応)

【傾向】

- ① 相談者は家族(親)から。若年層(19～30代)が多い
- ② ひきこもり年数が浅いが、医療が必要な深刻なケースが多い
- ③ 兄弟姉妹も課題(ひきこもり、不登校など)を抱えている
- ④ 定期的な家族面談を中心に伴走支援が必要



カード発行



パンフレット発行



「ひきこもり支援事業研修会」
(令和7年度大阪しあわせネットワーク
助成金を活用、令和8年2月開催予定)

初回相談から1年たった男性対象者が、自宅で作品を作り社協に持参。自宅で暴れることが減った。

主な実績③小地域ネットワーク活動推進事業

(目標1-取組1・3、目標2-取組1・3)

社会福祉法人
池田市社会福祉協議会



全11地区福祉委員会で、小地域ネットワーク活動が実施されている。地域生活課題や虐待の早期把握にも対応し、相談機関へつなぐ役割を果たしている。世代を超えた交流の場づくり「つながり・支え合い活動推進事業」を進める地区もある。取り組み対象が高齢者中心で、**全世代への活動展開**が一部の地区に留まっている点や**人材不足**が課題となっている。委員会では、小地域単位での要配慮者支援を日常的に行っているが、地域における**避難行動要支援者の支援体制整備**が行政等と連携して進んでおらず課題となっている。

事業実績

【小地域ネットワーク活動推進事業】

	グループ援助活動	個別援助活動	のべ対象者数
	のべ開催数	のべ対象者数	
R5	1,235回	4,292人	20,889人
R6	1,245回	3,050人	21,102人

【活動内容例】

グループ援助活動	ふれあいサロン、子育てサロン、おしゃべりサロン、男性料理教室、世代間交流、障がい者(児)事業、昼食会など
個別援助活動	見守り声かけ、外出介助、買い物、家事援助、配食など

【つながり・支え合い活動推進事業(赤い羽根共同募金配分金事業)】

R5:5か所、R6:6か所で、ティーサロンなどを実施



子育てサロン(神田地区)



ふれあいサロン(呉服地区)



サロンなどのPRチラシ(池田地区)

主な実績④ボランティアセンター事業

(目標2-取組1・3・4、目標3-取組1・2・3)

社会福祉法人
池田市社会福祉協議会



多くの住民がボランティア活動に関心をもち、積極的に参加できるよう、各種養成講座や情報発信を実施。災害時のボランティア活動推進のため、「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を開催し、平時からの体制構築に取り組む。男性シニア層のボランティアグループ登録が増えているものの、**壮年期世代や学生ボランティア**の活動推進が課題。また、災害時の運営支援協定は現在2団体に留まり、企業や団体へのさらなる働きかけが必要となっている。

事業実績

【ボランティア育成講座】

R5:6種60回、R6:6種81回(手話、点字、傾聴、日本語など)
夏のボランティア体験プログラム(市内の福祉施設協力による)

【情報発信】

広報誌「いけだの社協」(年4回、全戸配布)
ホームページ、facebook、メール配信、チラシ配下

【障がい者の社会参加促進】

手話・要約筆記ボランティアによる通訳活動(R5:124回、R6:121回)

【災害ボランティアセンター設置運営訓練】

年1回開催、R5:46人参加、R6:61人参加
ダイハツ工業(株)にて「災害ボランティアセンター運営支援者養成講座」

【福祉教育の推進】

小中高校へ当事者講師派遣・福祉用具貸出・福祉授業対応
(R5:7校、R6:11校)

教職員向け「福祉教育・ボランティア学習研修会」(年1回)

【シニア層の活動推進】

カメラ・コーヒー・木工などの得意分野を生かした、男性シニアの登録増
シニア世代の新規ボランティア登録は、R5:28人、R6:46人



災害ボランティアセンター設置運営訓練(年1回)



ボランティア
きっかけ講座



ダイエー池田駅前店
入口にチラシ配架